安全データシート

改訂日：2014年11月20日

1. 製品及び会社情報

製品名　キシレン
会社名　米山薬品工業株式会社
住所　大阪市中央区道修町２丁目３番１１号
電話番号　(06)6231-3555（大阪・本社）
(03)3246-2311（東京）　(0268)22-5910（上田）
(052)504-2221（名古屋）　(082)537-0290（広島）
整理番号　BB0104

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性　引火性液体：区分3

健康に対する有害性　急性毒性（経口）：区分5
皮膚腐食性・刺激性：　区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：区分2A
生殖毒性：区分1B
特定標的臓器・全身毒性：区分1
（単回ばく露）　（呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓）
：区分3（麻酔作用）
特定標的臓器・全身毒性：区分1（呼吸器、神経系）
（反復ばく露）
吸引性呼吸器有害性：区分2

環境に対する有害性　水生環境急性有害性：区分2
水生環境慢性有害性：区分2

＊記載のないものは｢分類対象外｣，｢分類できない｣または｢区分外｣。

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報
引火性液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ（経口）
皮膚刺激
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓の障害
眠気及びめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による呼吸器、神経系の障害
飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ
水生生物に毒性
長期的影響により水生生物に毒性

注意書き
【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
【救急処置】
火災の場合には適切な消火方法をとること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合：無理して吐かせないこと。
眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚（又は毛髪）に付着した場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けるこ
漏出物は回収すること。

	【保管】 容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学品・混合物の区別	単一物質（異性体混合物）
化学名	キシレン
別名	キシロール
化学式	$C_6H_4(CH_3)_2$
CAS No.	1330-20-7
成分及び含有量	o-,p-,m- キシレンの合計82～95%、エチルベンゼン5～18%
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	(3)-3
GHS分類に寄与する不純物及び安定化化合物	エチルベンゼン（5～18%）
化学物質排出管理促進法指定化学物質	第1種：キシレン、エチルベンゼン
労働安全衛生法57条表示対象物質	キシレン、エチルベンゼン
労働安全衛生法57条の2通知対象物質	キシレン、エチルベンゼン
毒物劇物取締法	劇物:キシレン
GHS分類に該当しない他の危険有害性	該当情報なし。
重要な兆候及び想定される非常事態の概要	該当情報なし。

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の手当、診断を受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 医師の手当、診断を受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
目に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 医師の手当、診断を受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の手当、診断を受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入すると、めまい、し眠、頭痛、吐き気。 皮膚に接触すると、皮膚の乾燥、発赤。 眼に接触すると、発赤、痛み。 飲み込むと、灼熱感、腹痛、めまい、し眠、頭痛、吐き気。

5. 火災時の措置

消火方法	
消火剤	小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、泡消火剤 大火災：散水、噴霧水、泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれが 引火性液体及び蒸気。
特有の消火方法	引火点が極めて低い：散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避け 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。

低地から離れる。
密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項　河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
環境中に放出してはならない。

回収、中和　少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法・機材　危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策　すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　「８．ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気　局所排気装置を設置する。

安全取扱い注意事項　すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
眼に入れないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

接触回避　酸化剤との接触を避ける。

保管

技術的対策　保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とするこ
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

適切な保管条件　熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。
酸化剤から離して保管する。
容器は直射日光や火気を避けること。
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
施錠して保管すること。

混触危険物質　酸化剤

容器包装材料　ガラス、スチール

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度　50ppm

許容濃度

日本産業衛生学会　50ppm 217mg/m^3

ACGIH　100ppm(TWA), 150ppm(STEL)

設備対策　適切な防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なう
高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具　適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具　適切な保護手袋を着用すること。

目の保護具　保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型） を着用すること。

皮膚及び身体の保護具　適切な顔面用の保護具を着用すること。

衛生対策　取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など　無色透明な液体

臭い　特徴的な臭気

pH	該当情報なし。
融点・凝固点	-48～13℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	138～144℃
引火点	27～32℃
爆発限界	0.9～7.0vol%
蒸気圧	0.7～0.9kPa
蒸気密度	3.66
比重（相対密度）	約0.8～0.9
溶解度	水に不溶。アルコールおよびエーテルに易溶。
オクタノール／水分配係数	該当情報なし。
自然発火温度	463～527℃
分解温度	該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	通常の条件では、危険有害な反応は起こらない。 強酸剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	加熱。
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11. 有害性情報

急性毒性	経口-ﾗｯﾄ LD50 4300mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	鼻、喉を刺激し、皮膚への繰り返し接触は炎症を起こす。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	眼を刺激する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。
生殖細胞変異原性	ヒト経世代疫学で陰性、経世代変異原性試験なし、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験（小核試験・染色体試験）で陰性であり、生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験な
発がん性	IARC：グループ3（ヒトに対する発がん性では分類できない） ACGIH：A4（分類できない）
生殖毒性	マウスの発生毒性試験で親動物に一般毒性がみられない用量で、胎児に体重減少、水頭症がみられている。
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	ヒトについては、「喉の刺激性、重度の肺うっ血、肺胞出血及び肺浮腫、肝臓の腫大を伴ううっ血及び小葉中心性の肝細胞の空胞化、点状出血と腫大及びニッスル小体の消失を伴う神経細胞の損傷、四肢のチアノーゼ、一過性の血清トランスアミナーゼ活性の上昇、血中尿素の増加、内在性クレアチニンの尿中クリアランス低下、肝臓障害及び重度の腎障害、記憶喪失、昏睡」、「肺のうっ血、浮腫、巣状肺胞出血」等の記述がある。
特定標的臓器・全身毒性-反復暴露	ヒトについては、「眼や鼻への刺激性、喉の渇き」、「慢性頭痛、胸部痛、脳波の異常、呼吸困難、手のチアノーゼ、発熱、白血球数減少、不快感、肺機能低下、労働能力の低下、身体障害及び精神障害」等の記述がある。
吸引性呼吸器有害性	液体を飲み込むと、誤嚥により化学性肺炎を起こす危険がある。

12. 環境影響情報

生態影響	該当情報なし。
残留性・分解性	急速分解性がない（39%by BOD） 微生物等による分解性が良好と判断される物質。（化審法既存点
生態蓄積性	生物蓄積性が低いと推定される。（log Kow = 3.16）
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層に対する有害性	該当情報なし。

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
燃焼法：ケイ藻土等に吸収させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。または焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	1307
品名(国連輸送名)	キシレン
国連分類	クラス3
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	該当しない。
MARPOLによるバラ積み輸送される液体物質	該当しない。
国内規制	
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
応急措置指針番号	130

１５. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質（キシレン、エチルベンゼン）
毒物及び劇物取締法	劇物
労働安全衛生法	法第57条(令第18条〔名称等を表示すべき有害物(MSDS対象物質)〕(キシレン、エチルベンゼン) 法第57条の2(令第18条の2)〔名称等を通知すべき有害物(MSDS対象物質)〕(キシレン、エチルベンゼン) 特定化学物質第2類物質・特別有機溶剤等（エチルベンゼン） 第2種有機溶剤（キシレン） 危険物・引火性のもの
消防法	第4類引火性液体　第2石油類非水溶性液体
海洋汚染防止法	有害液体物質Y類物質
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体
労働基準法	疾病化学物質

１６. その他の情報

引用文献	職場の安全サイトGHSモデルMSDS情報（厚生労働省HP） 15308の化学商品（化学工業日報社） 化学品安全管理データブック(化学工業日報社) 記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。